

特別史跡旧弘道館

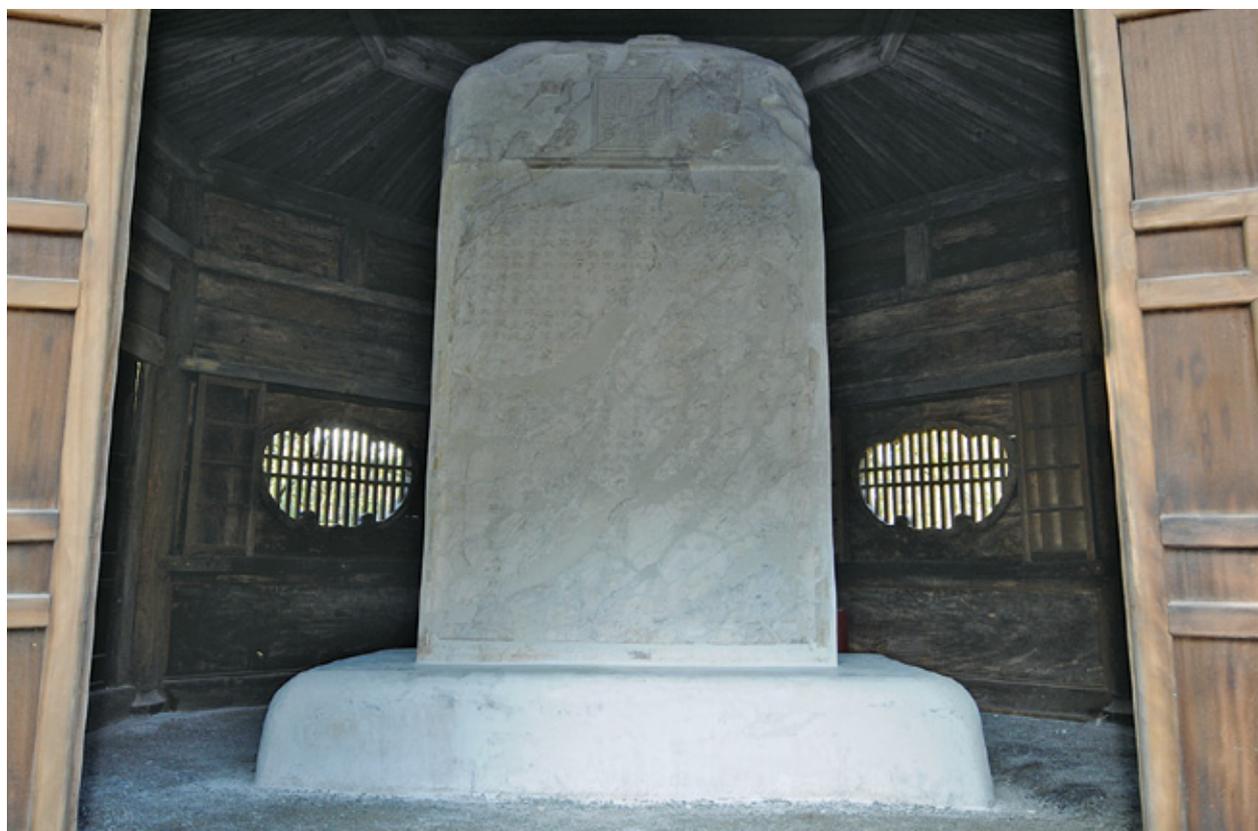
東日本大震災に伴う
弘道館記碑等の復旧事業報告書

2015年3月

文化庁文化財部記念物課



東日本大震災による被災直後の弘道館記碑



復旧後の弘道館記碑

序

特別史跡旧弘道館は、名君として知られる水戸藩第9代藩主徳川齊昭（烈公）が藩政改革の重要施策の一つとして開設した藩校です。当時の弘道館は藩校として全国一の規模を誇り、学問を学ぶ文館、武術を修練する武館、医学を学ぶ医学館、天文台、馬場、調練場、砲術場、寄宿寮等があり、総合大学のような施設でした。

弘道館建学の精神は、天保9年（1838）に齊昭の名で公表された弘道館記に「神儒一致」「忠孝一致」「文武一致」「学問事業一致」「治教一致」の5つの方針として示されています。これは神道と儒教、君主への忠義と父祖への孝行、文道（学問）と武芸の一致、富国強兵に代表される教育の成果が現実の政治のうえに活用されること、そして最後に、政治と教育とは一致するものであって、一体であるとするものです。

その文章は藤田東湖らが作成した原案を齊昭が裁定し、領内の真弓山（現常陸太田市）の寒水石と呼ばれる大理石に刻まれました。これが弘道館記碑で、学校施設の建設に先だって構想され、弘道館の敷地の中心に建てられました。まさに弘道館記碑は弘道館、そして特別史跡旧弘道館の枢要な施設と言えます。

さて、平成23年3月11日に起きた東日本大震災は、多くの人命を奪い、甚大な被害をもたらしました。特別史跡旧弘道館でも学生警鐘は倒壊、正門や正庁、至善堂、孔子廟戟門等の他、弘道館記碑・種梅記碑も被災しました。

弘道館記碑の碑身の一部は崩落し、碑文の刻まれた石が散乱しました。当初は全体が崩壊しかねず、修理で動かすこともできないと考えられるほどの状況でした。様々な検討を重ね、修理施設へ移動して解体修理し、樹脂や繊維等を用いて本体を強化、再構成した後に、薄くスライスカットした碑文面をその上に貼り付けるといった独特な手法を採用しました。失われた部分はありますが、関係者の熱い思いとご尽力により、耐震性を向上させ当初に近い形状を取り戻して復旧することができました。

本報告書は、東日本大震災で弘道館記碑と種梅記碑がどのように被災し、その後どのように復旧されたのか、経緯や成果をまとめたものです。石造物修理の技術についても詳しく記したため今後の参考になることを期待するとともに、特別史跡旧弘道館の保存活用の礎のひとつになることができれば幸いです。

文化財を保存し、活用していくことは私たちの責務です。今後とも特別史跡弘道館が国民の誇りとなり、歴史を学び体験できる場所として、愛されて活用されていくことを願ってやみません。

最後になりましたが、旧弘道館復旧整備検討委員会の先生方をはじめ、御支援いただきました関係の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成27年3月

文化庁文化財部記念物課

例 言

- 1 本書は、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により被災した特別史跡旧弘道館の史跡の構成要素である弘道館記碑及び種梅記碑の復旧事業報告書である。
- 2 事務局の体制は以下のとおりである。
文化庁文化財部記念物課
課 長 矢野和彦 榎本 剛 高橋宏治
課長補佐 島崎正弘 鈴木修二
管理係長 鳥居省司 作田亜希子 山崎康司
管 理 係 木戸洋平（滋賀県彦根市研修生） 渡邊 輝（滋賀県彦根市研修生）
史跡部門 佐藤正知（主任文化財調査官） 三宅克宏（文化財調査官） 山下信一郎（文化財調査官）
浅野啓介（文化財調査官）
整備部門 内田和伸（文化財調査官） 中井將胤（文化財調査官）
阿部 慎（福岡県研修生） 川口武彦（茨城県水戸市研修生）
- 3 弘道館記碑及び種梅記碑の復旧修理に際しては、文化庁文化財部記念物課が、旧弘道館復旧整備検討委員会を設置し、委員からの指導・助言を仰ぎながら、事業を進めた。事業の推進にあたり、茨城県及び茨城県教育委員会の協力を得た。
- 4 本書の執筆は、第 1 章第 1 節及び第 2 節を佐藤正知、第 1 章第 3 節及び第 4 節を内田和伸・小坪のり子（茨城県弘道館事務所）、第 2 章第 3 節 6 を小坪のり子、第 3 章第 5 節を石崎武志・金子満義（株式会社協振技建）、付章を上條信彦（弘前大学人文学部）・氏家良博（弘前大学大学院理工学研究科）、それ以外の執筆と編集を内田和伸が担当し、川口武彦（文化庁文化財部記念物課整備部門研修生（茨城県水戸市派遣））が編集に協力した。
- 5 本書に用いた註記のない写真の多くは（株）ぎエトスあるいは根本渉（茨城県弘道館事務所）が撮影し、それぞれから提供を受けたものである。
- 6 今回の調査で採集された遺物などの資料は茨城県弘道館事務所が保管している。

目次

第1章 弘道館記碑の沿革	1
第1節 特別史跡としての旧弘道館	1
第2節 弘道館記及び記碑の成立過程	1
第3節 戦後の弘道館記碑の修復	7
第4節 震災前の状況	12
第5節 東日本大震災による弘道館記碑の被災状況	13
第2章 東日本大震災に伴う弘道館記碑等復旧事業の概要	16
第1節 東日本大震災に伴う弘道館記碑等復旧事業に至る経緯	16
第2節 東日本大震災に伴う弘道館記碑等復旧事業の体制	16
第3節 東日本大震災に伴う弘道館記碑等復旧事業の概要	18
第3章 弘道館記碑の復旧工事までの調査と設計	24
第1節 石材の回収保管・状況調査・碑の保護	24
第2節 発掘調査	28
第3節 構造予備調査	29
第4節 各種地盤等調査	31
第5節 地震時の碑身の安定解析	35
第6節 被災原因と復旧方針	37
第7節 実施設計	37
第4章 弘道館記碑の復旧工事	50
第1節 碑身の搬出	50
第2節 搬出後の碑身の状況	53
第3節 碑身の解体	55
第4節 遺存部の強化	56
第5節 碑文石	60
第6節 残存部の再構成	61
第7節 碑身背面の処理	67
第8節 碑文石の修復	71
第9節 台石の修復	80
第10節 碑身の搬入と設置	84
第11節 弘道館記碑復旧のまとめ	89

第 5 章	種梅記碑の被災と復旧	97
第 1 節	種梅記碑とは	97
第 2 節	東日本大震災による被災状況	98
第 3 節	工事概要	98
第 4 節	復旧の概要	98
付章	弘道館記碑のダボから検出した黒色物の分析	103

